

平成19年度優良公民館の事例紹介

【施設名】

千葉県野田市中央公民館

【野田市の概要】

千葉県の北西部に位置する醤油のまち「野田市」は、南を利根運河、北東を利根川、西を江戸川と、周囲を川に囲まれ、それぞれが柏・流山両市、埼玉県、茨城県に隣接する、緑と水に恵まれた台地を有するまちです。面積は103.54平方キロメートル。

平成15年6月6日に東葛飾郡関宿町と合併をいたしました。旧来、公民館が旧野田市7館、旧関宿町1館ありましたが、合併に伴い、旧関宿町のコミュニティ会館3館を公民館とし、現在11館体制で市民に様々な事業を提供しています。

【施設の概要】

野田市中央公民館は、昭和49年に開館し、延べ床面積は、1,535㎡で、1階に利用者が自由に集えるロビー・講習会やダンス等で利用される講堂・30名までの会議等に使用できる会議室・10名程度の少人数で使えるクラブ室・親子親睦や講座の保育に使用する児童室、2階に和室・40名までの会合で利用できる講座室・絵画や書道など創作活動に適した学習室・調理実習室・陶芸専門の美術工芸実習室があります。また、平成14年度から、中央公民館の休館日を年末年始のみとし利用者の利便を図り、平成18年度の利用者数は、176,349名です。

【シニア世代地域参加支援事業】

平成19年（2007年）を迎え、昭和22年から24年生まれの、いわゆる団塊世代と呼ばれる方々の、大量定年退職がいよいよ始まりました。

野田市では、団塊世代の他、その前後の世代であるプレ団塊世代（昭和19～21年生まれ）、ポスト団塊世代（昭和25～27年生まれ）とされるシニア世代の方々に、キャリアデザインの視点を生かして地域に貢献しながら楽しみ、生きがいを感じられるような、「質の高い生き方」を見つけていただきたいと考えています。また、長い間の仕事で培った様々な経験やノウハウを地域に活かしてもらいたいと考えています。

そこで、野田市では、シニア世代の方々が様々な地域活動へスムーズに参加していただくための事業を「シニア世代地域参加支援事業」と位置づけ、

- (1) 退職後の人生を生きがいを持って過ごしてもらうための支援
- (2) 講座だけでなく実際にボランティア等地域活動への参加のきっかけづくりまでの支援
- (3) スムーズに地域へ溶け込むための支援

という3つの支援策を実施しています。

【公民館における事業展開】

公民館では、シニア世代地域参加支援事業の取組み前に、平成17年度に「キャリアデザイン支援事業」として、「団塊世代が定年を迎えるとき」という講座を開設しました。「キャリアデザイン」とは、家庭、学校、職場、地域など人生のあらゆる場所と時期に、「自分らしい生き方（キャリア）の設計（デザイン）あるいは再設計」のために、必要な知識、技術を身につけ、最適な職業選択や社会参加を図るなど、これらを実践していくことをいいます。あらゆる世代に共通する課題ですが、団塊世代の生き方を考える上でも、重要な役割を担うものとして期待されている考え方です。

公民館としても、キャリアデザインによるまちづくりを視野に入れ、団塊世代の方が、定年後の人生設計の描き方や地域参加について考える講座を開設することにしました。定年退職を機に、地域へ帰ってくる団塊世代の方が、これからの生き方を模索するとき、その指針となるべき考え方の存在は、大きな心の支えとなるはずだからです。

この考え方を基礎にして、平成18年度からは、団塊世代・シニア世代の方々を対象としたキャリアデザイン「シニア世代地域参加支援事業」に取り組んでいます。

平成19年度、中央公民館では3つのシニア世代地域参加支援事業に関する講座を先に述べた3つの支援策を目的に開設しています。「ふるさと野田講座～スケッチで描く野田の風景～」は、自分たちの住むまちをスケッチを通して見つめなおしてもらおうとするものです。従来のスケッチ教室でも実際に外に出て行うものではありませんが、いわゆる名所旧跡を訪ねるのではなく、自分たちの身の回りの何気ない風景を通して足元を確認していただくものです。「初めての家庭菜園」では、農家の方と一緒に、1区画30㎡の土地を年間をとおして畑を耕作することにより、栽培や収穫の楽しみを感じるとともに、受講生同士の交流から自然と仲間づくりを推進することが出来つつあります。



「落語を楽しもう」では、『自分で落語を語ろう』を目標に、真打の噺家の方より、落語の符丁や小道具の使い方、寄席文字の話や亭号のいわれ等、落語の周辺知識や寄席の楽しみ方を学ぶとともに、自分たちで小噺を一席でもいいから語れるように学んでいます。この講座は今年度末に終了いたしますが、早くもサークル化の話が持ち上がっており、自分たちで一座を組んで、学校や福祉施設等に出かけるのを夢見ています。

【今後の課題】

シニア世代の方が既存の地域団体にスムーズに参加できるよう、また参加へのきっかけづくりとなるよう、公民館では事業を展開していますが、一足飛びに成果が出るものではないと考えています。会社人間から地域の人へ、仕事仲間から地域の仲間へ。このようなネットワーク作りが公民館に課せられた使命と考えています。

また、仕事で培った様々な知識や技術を如何に地域で発揮してもらうのか。2007年問題は始まったばかりです。これからも公民館が地域の社会教育の拠点として、地域に住む人が生きがいを持って暮らせるよう事業を展開していきたいと考えています。



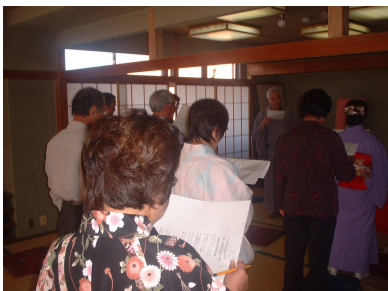
野田市中央公民館
シニア世代地域参加支援事業



作物の消毒をする受講生



作物の成長を見る受講生



「落語を楽しもう」発声練習



「落語を楽しもう」扇子を盃に見立てる